

そらしーど社員Interview Vol. 1  
「本質的な介護をめざして」



そらしーど社員Interview Vol. 1  
「本質的な介護を目指して」  
訪問介護職員 Nさん

施設で何十年と長く介護士として働いていたNさん。介護という仕事を辞めて一旦地元に帰ろうとしていたところ、「訪問介護」の存在を知りました。「実際訪問介護を始めてみて、自分に合っているな、楽しいな、と感じます。」と穏やかに微笑みます。

今回はそんなNさんに、普段のお仕事内容ややりがい、今後の抱負などについてお話を聞きました。

ヘルパーNさん  
—〇〇代女性  
—趣味はカメラやギターなど多趣味

※掲載内容は取材当時のものです。（2022年5月20日）

目次（?）

お互いに心が通じて笑った瞬間「やっててよかったなあ」って思う。

——お仕事内容はどんな感じですか？

自転車で各お宅を回って介護サービスをしています。内容はお風呂だったり、掃除だったり、排泄介助だったり、色々あります。

——職場の雰囲気はどんな感じですか？

いいと思います。最近は忙しくなってきた、最初より他のヘルパーさん達と関わりが減ってきましたね…けど時間が合うときは、同じサービスに入っているご利用者さんの状況とかお互いに共有しています。

あとは「ケアホ」を使って他の職員さんと情報を共有しています。

ケアホ：全スタッフに配布される介護ソフトの入ったスマートフォン。ご利用者宅入退室確認や、申し送り、業務連絡を含む日々のやりとりまでスピーディーにリアルタイムで対応できる。

——お仕事をされていて大変なことってありますか？

大変なことかあ…やっぱり、雨とか、雪とか…（笑）、暑い日とか、の移動が大変ですね（笑）

——ご利用者さんの家、というよりも結構移動の方が…なんですね（笑）

はい…

あと、最初の頃はご利用者さんの家まで行く時間も気にしなければならないし…、時間もあんまりなくて、覚えることが大変でした。焦る癖があったので…。

——焦る癖、今では全然想像できないですね！

そういう大変だったことってどうやって対処したんですか？

何分遅れますって、ケアホでサービス提供責任者の方に伝えながらやっている時もありました。あと、暑い、寒いとかの天気に対しては、帽子を被ったり、首に巻くアイスを着けたり、お水をこまめに飲むようにしたりしてますね。



——仕事でのやりがいとはどんな時に感じますか？

ご利用者さんが笑顔でいることが「ああやってよかったなあ」って一番思うことですね。寝たきりとか認知症、色んな症状があるんだけどやっぱりお互いの心が通じて笑った瞬間によかったなあって思います。「まってたよ」とか「ありがとう」とか声かけてもらったときとかも。

## 自分だけの「付加価値」

——これからの目標、抱負などがありましたら、教えてもらっていいですか？

介護の仕事として、お風呂の介助とか、掃除だったり、ヘルパーみんなが同じ仕事をしているじゃないですか。その中で付加価値をつけたいなって思っています。自分だからできること、自分だから気づけることがあって、そしていいサービスができたらいいなあって思っています。人とちょっと違うサービスができたらいいなあって、思っていますね。あの人が来てくれるから助かる、元気になれる、とか思われたらいいなって。そういう路線でやっています。

あと、訪問介護は流れ作業ではない、より人間らしい生活をご利用者さんに送ってもらっているから、私はいいなって思っています。なにか…怒られてもいいんだけど別に、って思っていて…。自分のこだわり、気づいたことは自分からやるっていう感じで、**本質的な介護を目指して**、行っています。

——普段は見れない様な、Nさんの熱い部分が垣間見れ、刺激を受けました。ありがとうございました！

こちらこそです、ありがとうございます。(\*^\*)